

# 第 2 次香取市総合計画 基本構想(案)

平成 30 年 2 月

# 目次

第1編	はじめに.....	1
<b>1章</b>	<b>総合計画の概要</b> .....	<b>2</b>
1節	計画策定の趣旨.....	2
2節	計画の役割.....	2
3節	計画の構成と期間.....	3
<b>2章</b>	<b>市の概況</b> .....	<b>4</b>
1節	地勢.....	4
2節	市の沿革.....	5
3節	市の人口動態.....	6
4節	市の財政状況.....	7
5節	市民憲章、市章、市の花・木・鳥.....	8
<b>3章</b>	<b>社会的潮流と動向</b> .....	<b>9</b>
1節	少子高齢化と人口減少.....	9
2節	経済情勢と雇用環境.....	9
3節	高度情報化社会.....	9
4節	文化の多様化.....	10
5節	安心と安全.....	10
6節	地方創生と地方分権.....	10
<b>4章</b>	<b>まちづくりについての「市民の声」</b> .....	<b>11</b>
<b>5章</b>	<b>香取市総合計画・後期基本計画の検証</b> .....	<b>19</b>
1節	検証の趣旨.....	19
2節	検証の考え方.....	19
3節	検証結果.....	19
第2編	基本構想.....	22
<b>1章</b>	<b>香取市が目指す方向性</b> .....	<b>23</b>
1節	将来都市像.....	23
2節	施策の大綱.....	24
3節	まちづくりの基本姿勢.....	27

# 第1編 はじめに

- 1章 総合計画の概要
- 2章 市の概況
- 3章 社会的潮流と動向
- 4章 まちづくりについての「市民の声」
- 5章 後期基本計画の検証

# 1章 総合計画の概要

## 1節 計画策定の趣旨

本市は、平成18年3月27日に佐原市、小見川町、山田町及び栗源町の1市3町が合併して誕生しました。本市として初の総合計画である香取市総合計画では、「元気と笑顔があふれるまち 一人ひとりの市民が輝く 活みなぎる やすらぎの郷 香取」を将来都市像と決めました。また、将来都市像の実現に向け、環境の変化や市民ニーズに的確に対応し、地域の個性や資源を活かして一体感を醸成できるよう、6つの基本目標を設定し様々な取り組みを進めてきました。

本市の誕生から10年以上が経過し、その間に、これまで発展を支えてきた道路等の社会インフラが老朽化するなど、香取市総合計画の策定時とは状況が異なっています。また、急激な人口減少、少子高齢化の進行により、地域経済や地域活力の低下など様々な影響が予想される状況を直視する必要があります。

このため、このような時代・環境の変化や市民ニーズに的確に対応し、市民との協働を一層推進するとともに、地域の個性や資源を活かしながら、新たな視点と発想に立ち、まちづくりの指針となる計画を策定します。

## 2節 計画の役割

総合計画は、より質の高い市民生活を実現していくための、本市における最上位のまちづくり計画であり、その性格から次のような役割を持っています。

- ①市のまちづくりの中核となる計画 として
- ②市民に対する市の運営指針 として
- ③国や県に対する市が目指すまちづくりの提示 として

### 3節 計画の構成と期間

総合計画は、基本構想と基本計画で構成されます。また、基本計画を達成するための具体的な手段として、実施計画を策定します。

#### 「基本構想」

- 市の将来像を示すとともに、それを実現するために必要な政策の大綱を明らかにするものです。
- 計画期間は、長期的な視野に立ったまちづくりを進めていく必要から、10年間とします。

#### 「基本計画」

- 基本構想で示した将来像を実現するため、施策の大綱に従い施策の目的や方針を明らかにするものです。
- 計画期間は、中期的な観点から、基本構想の実現を図るため、前期5年間、後期5年間とします。

#### 「実施計画」

- 基本計画の施策を達成するために、必要な主要事業の具体的な内容を明らかにするものです。
- 計画期間は3年間とします。(単年度ごとの行動計画として作成し、毎年度見直しを行う)

#### 【総合計画の構成】



## 2章 市の概況

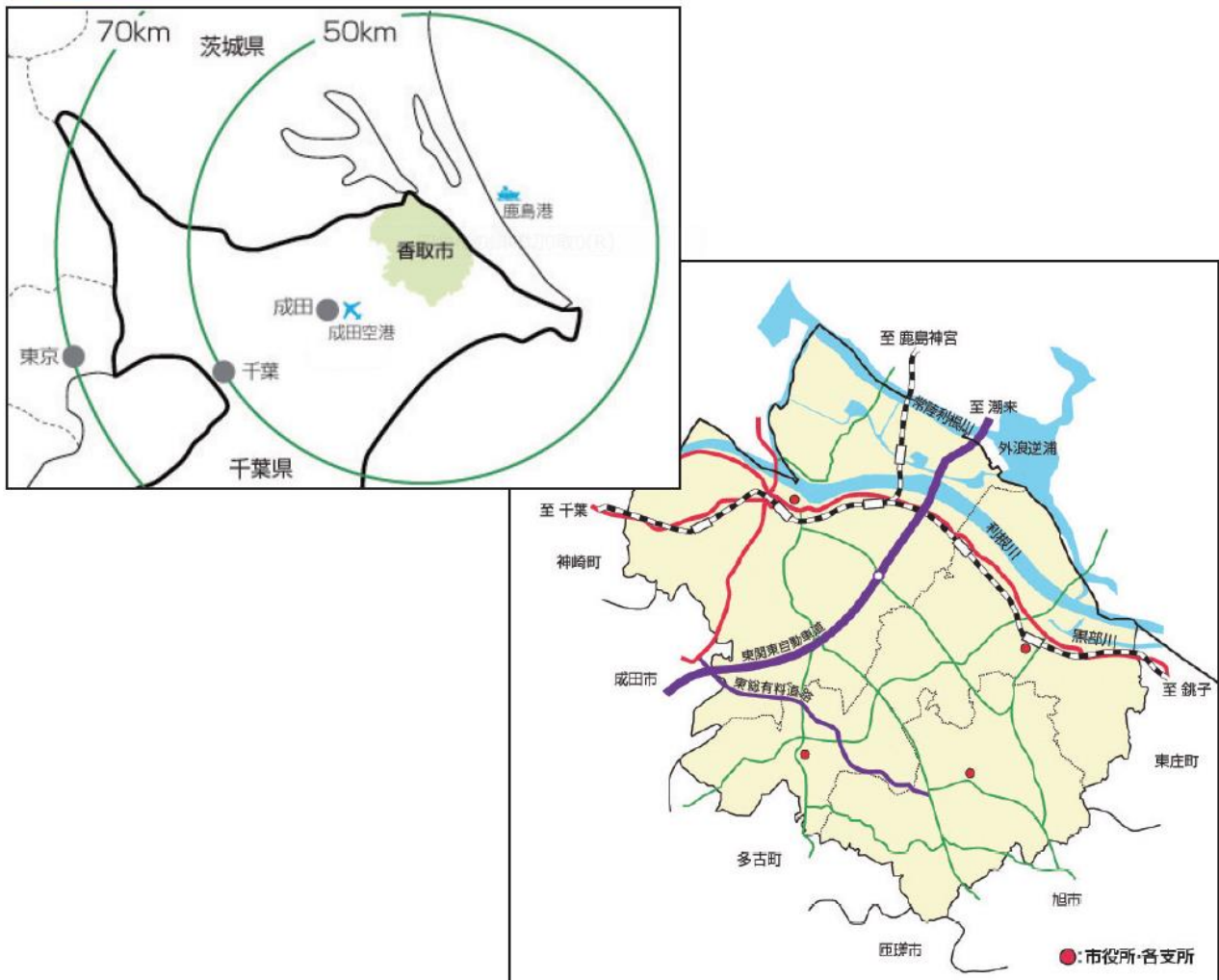
### 1節 地勢

本市は、千葉県北東部に位置しており、東京都心から直線で約70km、千葉市から約50km、成田国際空港から約15kmの距離にあります。市域は東西約21.2km、南北約22.7kmに及び、面積は262.35㎢と県内第4位の規模を有し、東部は東庄町、西部は神崎町、成田市、南部は旭市、匝瑳市、多古町、そして北部は茨城県に接しています。また、国道51号、東関東自動車道が市内を縦断し、JR成田線が市内を横断しており、成田線、鹿島線を合わせ6駅が市内に所在しています。

北部地域には水郷の風情が漂う利根川が東西に流れ、流域には水田地帯が広がり米の生産地となっており、南部地域は北総台地の一角を占め、山林や畑が広がり、サツマイモなどの生産地となっています。

また、水郷地域の象徴として、利根川、常陸利根川、横利根川、黒部川、小野川など15の一級河川が市内を流れ、主要な湖沼には与田浦、さらに、自然公園として水郷筑波国定公園、県立大利根自然公園を有するなど、水郷情緒の趣を感じることもできる、豊かな自然環境に恵まれています。

### ◇位置図

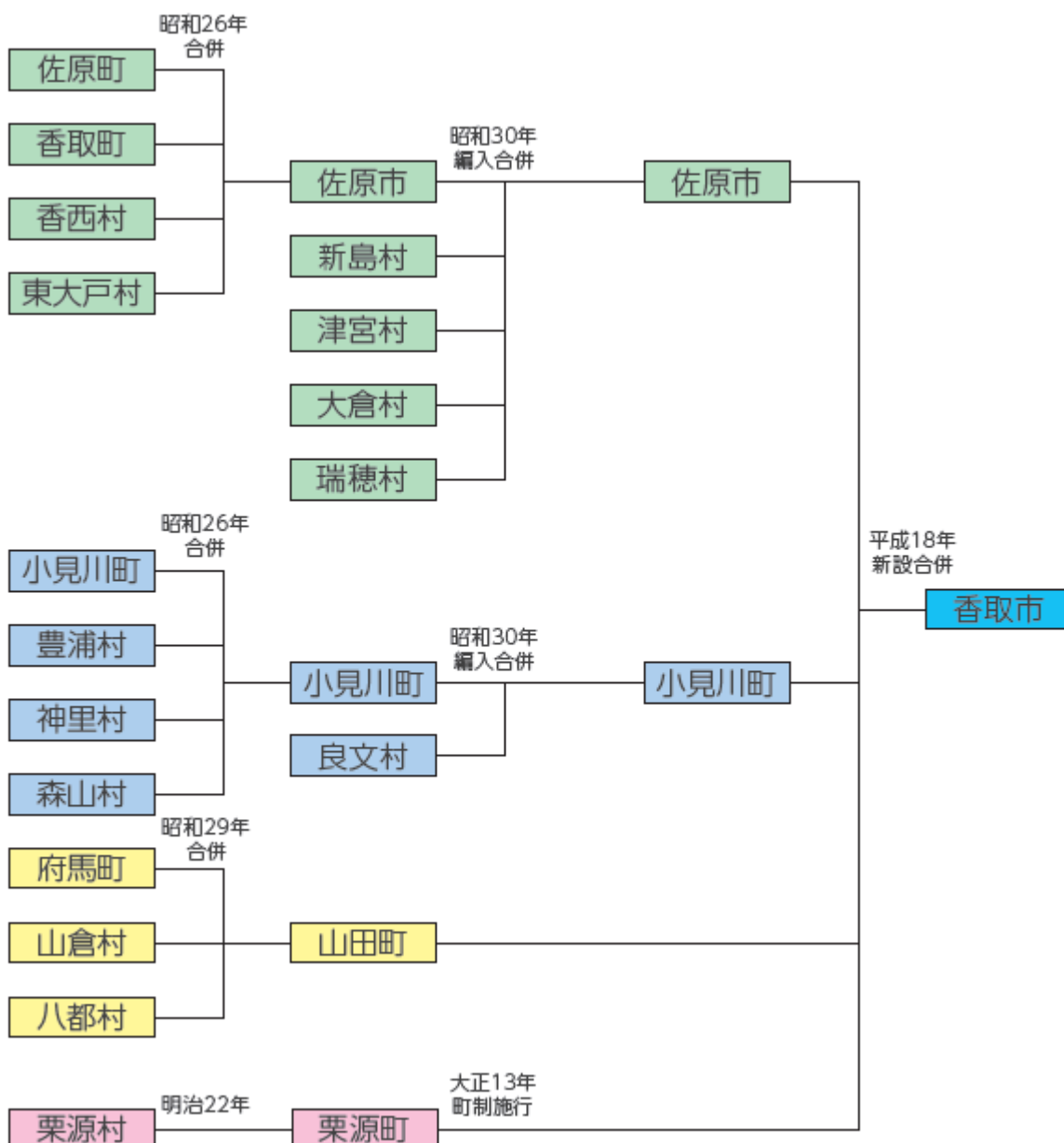


## 2節 市の沿革

昭和の大合併に伴い、昭和26年3月15日には、佐原町、香取町、香西村、東大戸村が合併して佐原市が誕生し、昭和30年2月11日には、新島村、津宮村、大倉村、瑞穂村を編入しました。

これと同じ頃、昭和26年4月1日には、小見川町、豊浦村、神里村、森山村が合併して小見川町が誕生し、昭和30年2月11日には、良文村を編入しました。さらに、昭和29年8月1日には府馬町、山倉村、八都村が合併し、山田町が誕生しました。また、明治22年に誕生した栗源村は、大正13年に町制施行により栗源町に移行しました。

その後、平成の大合併に伴い、平成18年3月27日に佐原市と小見川町、山田町、栗源町の1市3町が合併し香取市が誕生しました。

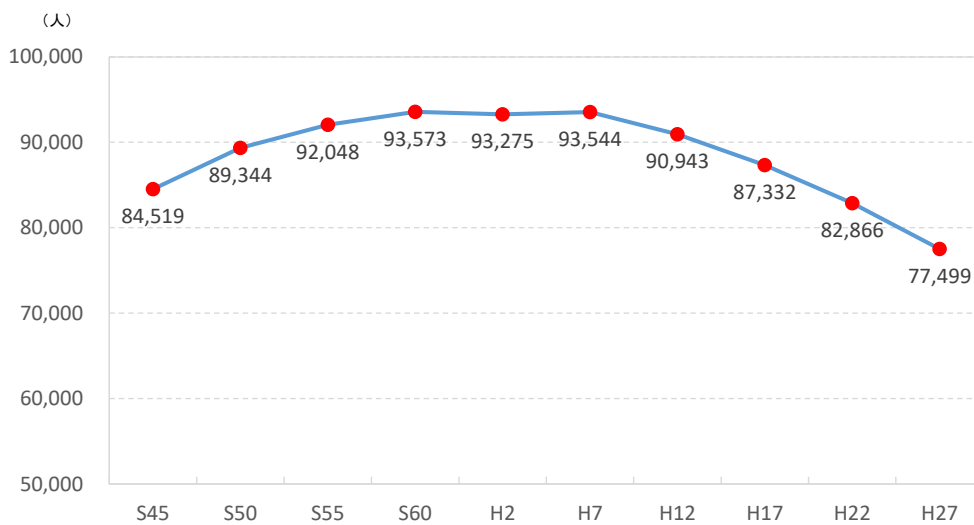


### 3節 市の人口動態

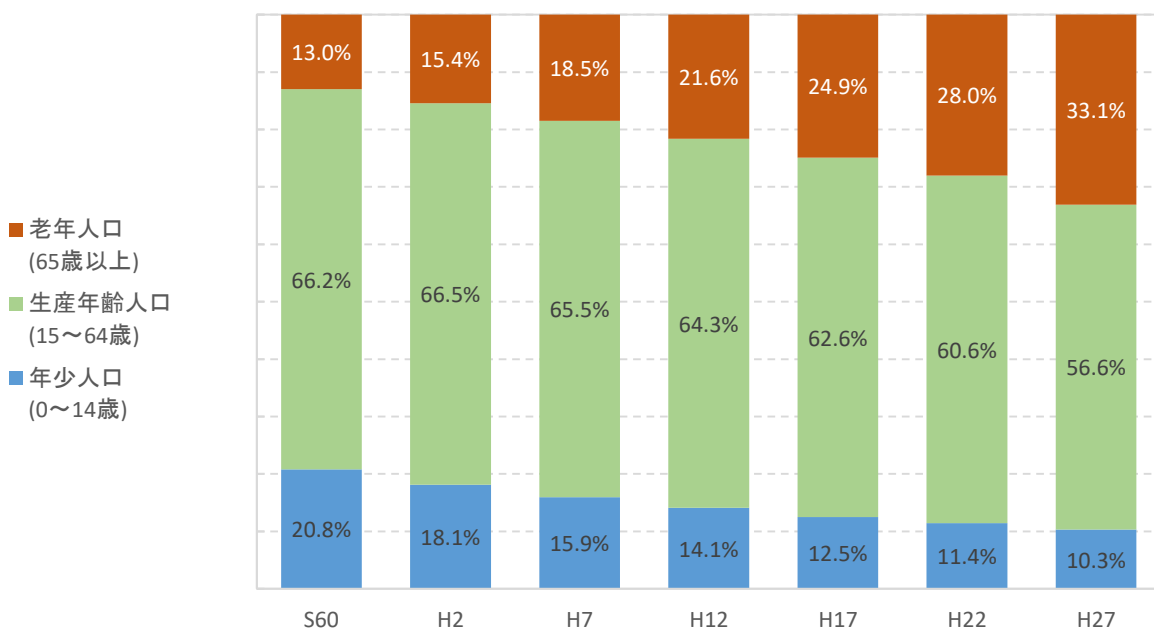
本市の人口（平成18年度以前は、合併前の佐原市、小見川町、山田町及び栗源町の人口の合計数）は、昭和45年（84,519人）以降増加を続けていましたが、昭和60年（93,573人）をピークに減少に転じています。近年はその傾向が加速しており、平成17年から平成27年までの間で、約9,800人減、11.3%の減少となっています。

年齢階層別人口の推移をみると、15歳未満の年少人口の比率が減少する一方で、65歳以上の老年人口、いわゆる高齢者人口の比率が大幅に増加しています。全体として本市の人口構成は、少子高齢化が加速度的に進んでいることが分かります。

#### 人口の推移



#### 年齢階層別人口の推移



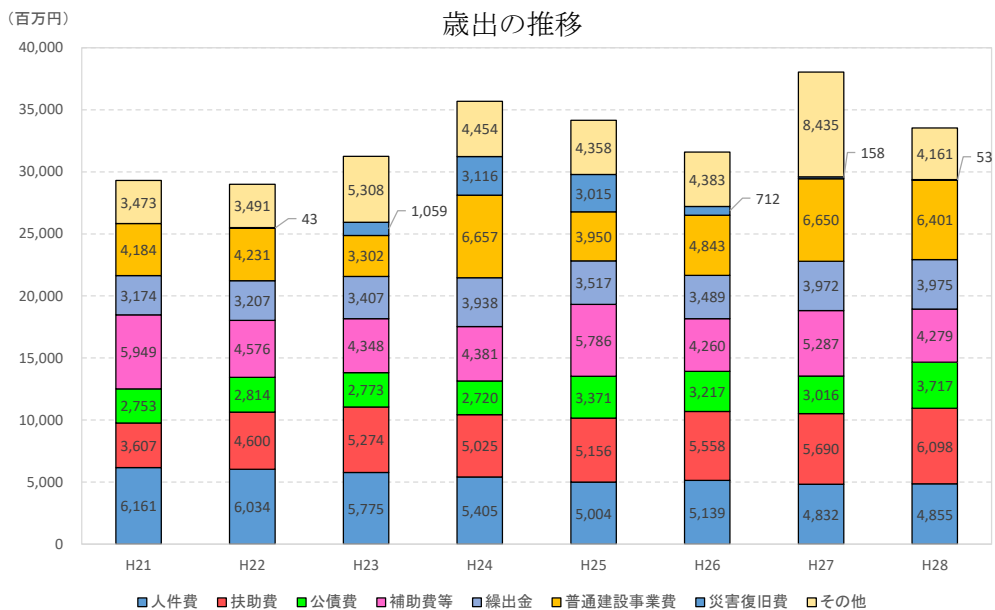
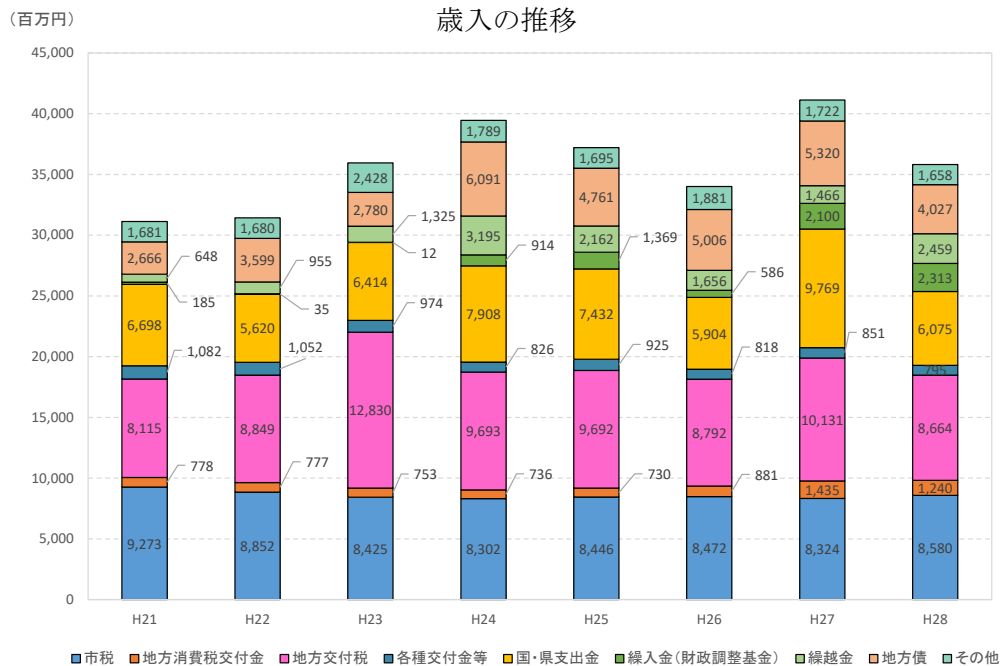


#### 4節 市の財政状況

本市の平成21年度から平成28年度の歳入・歳出の決算値の推移は下のグラフのとおりです。

歳入は、災害復旧事業や普通建設事業などの歳出に伴う地方交付税（震災復興特別交付税）、国庫支出金、地方債などの変動により、歳出と同様の推移を示しています。

歳出は、平成21、22年度は約290億円で推移してきましたが、平成24年度には東日本大震災発生による災害復旧事業に加え、学校給食センター統合整備事業や小見川市民センター整備事業などの普通建設事業費の増により約350億円となっています。平成27年度には、東日本大震災復興交付金に係る積立金に加え、小・中学校大規模改修事業などの普通建設事業費の増により約380億円となっています。



注)・各年度の値は、普通会計ベース（純計相殺後）のものです。

## 5節 市民憲章、市章、市の花・木・鳥

### ① 市民憲章（平成23年3月27日制定）

わたくしたちの香取市は、雄大な利根の流れと肥沃な北総台地に生まれ、香取の杜や伝統的な町並みをもつ、豊かな自然と長い歴史のあるまちです。

わたくしたちは、この郷土を愛し、市民協働による住みよいまちをつくるため、ここに市民憲章を定めます。

- 水や緑を大切にし、美しいまちをつくりまします。
- 地域の歴史を大切にし、文化の香り高いまちをつくりまします。
- きまりを守り、平和で安心なまちをつくりまします。
- とともに学び、ともに働き、活気あふれるまちをつくりまします。
- お互いに助けあい、笑顔で暮らせるまちをつくりまします。

### ② 市章（平成18年9月3日制定）

美しい水辺の自然、広大な水田と里山の自然、未来に広がる青空を香取市(katori)の頭文字「K」に重ね、鳥の羽ばたく形にシンボル化しています。躍動感のある形は、香取市の美しく雄大な自然と、未来への発展を象徴しています。



### ③ 市の花・市の木・市の鳥（平成19年3月27日指定）

アヤメは、アヤメ科アヤメ属の多年草で、5、6月頃に紫色・白色等の花を付けます。この他に、アヤメ属に分類されるハナショウブ、カキツバタ等も含め市の花としています。利根川を中心に小野川、黒部川、栗山川など豊かな水辺に恵まれている本市において、アヤメは水辺を代表する花として、広く市民から親しまれています。

サクラは、バラ科サクラ属の落葉高木です。日本の代表的な花木として、古来広く親しまれています。特定の品種を限定せず、サクラ全般を市の木としています。市内には、諏訪公園、城山公園、橘ふれあい公園、香取神宮など多くのサクラの名所があり、広く市民から親しまれています。

ヨシキリは、スズメ目ウグイス科の鳥です。夏鳥として渡来し、利根川などの葦原に生息しています。オオヨシキリ、コヨシキリいずれも市の鳥としています。葦原の中で賑やかにさえずる様子は、古くから水郷の風物詩として語り継がれ、多くの唄や俳句にも詠まれるなど、市民にとって大変馴染み深い鳥です。



市の花：アヤメ



市の木：サクラ



市の鳥：ヨシキリ

## 3章 社会的潮流と動向

### 1節 少子高齢化と人口減少

日本の総人口は、1億2,693万3千人（総務省人口推計：平成28年10月1日現在）と平成20年度をピークに減少に転じています。合計特殊出生率は、1970年代前半のベビーブーム以降、緩やかに低下し、近年若干の上昇傾向がみられるも、依然として人口置換水準を下回っています。そのため、今後も人口減少は続き、そのスピードは加速度的に高まっていくと推計されています。

また、2025年には昭和22～24年生まれである団塊の世代が75歳以上となり、後期高齢者の急増に伴う医療や介護、福祉サービスの需要の高まりから、社会保障制度の持続可能性が懸念されています。

少子高齢化の進行は、消費の縮小や労働力人口の減少に伴う税収の低下につながるだけでなく、社会保障費が増大するなど、様々な分野に影響を及ぼすとみられており、本市の持続可能への影響が懸念されています。

### 2節 経済情勢と雇用環境

日本の経済は、バブル経済の崩壊後、リーマンショックなどの影響を受け低迷期が続いたものの、長期にわたるデフレ経済と景気低迷からの脱却を最優先課題とした金融政策や財政政策、民間投資を喚起する成長戦略が推進され、景気は緩やかに回復しています。しかしながら、経済の先行きは、依然不透明な状況にあります。

また、雇用関係では、労働環境の改善に向けた関心の高まりから、政府は、平成29年3月に「働き方改革実行計画」を決定し、一人ひとりの個性を尊重し、能力が発揮できるよう、旧来の雇用や労働に関する条件などの見直しを図っています。

本市においては、成田市や神栖市など、雇用機会が比較的多い地域と隣接しており、市内に在住しながらある程度就労の場を確保できる環境にある一方で農業や商業では後継者の確保が喫緊の課題となっています。

### 3節 高度情報化社会

インターネットをはじめとする情報通信技術（ICT）の発達や情報通信機器（パソコンや携帯電話など）の普及によって、あらゆる場面において容易に情報の収集・発信ができるようになりました。これによって、国民の経済活動やライフスタイルは、大きく変化しています。

また、社会保障や税の公平・公正性を確保するとともに、国民の利便性を向上し、行政の効率化を図るための社会基盤として、マイナンバー制度が平成27年10月より導入されています。

高度情報化社会の進展により利便性が向上する一方で、個人情報への漏えいやコンピューターウイルスの蔓延など、コンピューターを起点とした被害が多種多様に及んでおり、セキュリティ強化は急務となっています。

また、インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と、利用できない者との間に生じる格差（デジタル・デバイド）が生じることへの懸念も指摘されています。

#### 4節 文化の多様化

政府は、平成24年に「観光立国推進基本計画」を策定し、全国的な観光振興を進めてきました。2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定され、外国人観光客の増加が見込まれます。このため、東京近郊の自治体のみならず地方の自治体においても、外国人観光客の受入れ体制の整備を積極的に推進しています。

本市は、日本の空の玄関口であり、国際線外国人旅客数が年間約1,430万人（平成28年度）に上る成田国際空港に隣接しております。このため、外国人観光客の誘致に当たっては、このような好立地を生かした環境の整備が必要となります。

#### 5節 安心と安全

平成23年に発生した東日本大震災や平成28年に発生した熊本地震のような大規模自然災害が日本各地で発生しています。地震や津波、台風などの相次ぐ自然災害の発生により、人々の災害に対する備えや危機意識は高まってきており、被害を最小限に抑える減災の重要性も広く認識されてきている中、地域防災計画や地域住民による防災対策の見直しなどにより、安心・安全な地域づくりを推進していくことが求められています。

また、高齢化の進行によって、医療や介護などの社会保障に係る負担の増加が見込まれるほか、独居者の孤独死や買い物難民の発生といった新たな問題も顕在化してきており、早急な対応が求められます。これら以外にも交通事故や複雑・多様化する悪質犯罪等、地域で発生しうる様々な危険から住民を守り、若者から高齢者までが安心して暮らせるまちづくりを目指していく必要があります。

#### 6節 地方創生と地方分権

平成26年9月に「まち・ひと・しごと創生本部」が発足したことに端を発し、各地方公共団体では、人口減少対策やふるさと納税による地方活性化等「地方創生」に向けた動きが活発化しています。また、「地方分権改革」に基づく国から地方公共団体への権限移譲に伴い、各地方公共団体が自主性を発揮し、地域住民が地方行政に参画・協働することで、住民サービスの質を向上させる組織づくりが進められています。

地域の個性を生かした持続可能なまちづくりを実現するために、まちづくりの主体となる住民、企業、行政などが対話を深めることで目標や目的を共有し、それぞれが協働して責任と役割を果たすことが重要となります。

本市においても、地域経済の低迷、少子高齢化の進行など、本市を取り巻く厳しい社会経済環境の中、「住みたい」「住み続けたい」と思える魅力あるまちづくりに向け、人口流出や出生率の向上などに積極的に取り組むため、平成27年度から平成31年度までの5年間を計画期間とし、目標や施策の基本的方向、具体的な施策を取りまとめた「香取市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。この総合戦略に基づき、本市を取り巻く社会情勢・経済情勢の変化にも柔軟に対応しながら地方創生に向け取り組む必要があります。

## 4章 まちづくりについての「市民の声」

### 1. 市民意識調査の概要

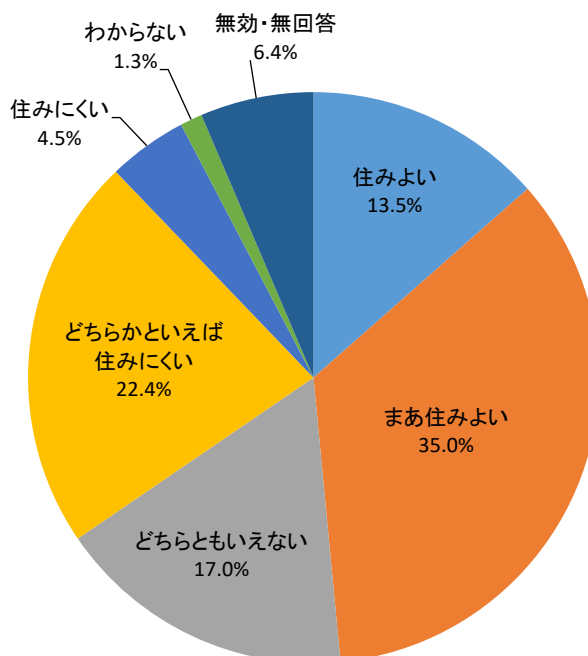
平成29年（平成29年9月20日～10月10日）に、市民の市政に対する評価とこれからのまちづくりに対するニーズや意識を統計的に把握し、第2次香取市総合計画・前期基本計画の策定や、市政運営にあたっての基礎資料とするため、市民意識調査を実施しました。

### 2. 市民意識調査の結果

#### (1) 市の住みやすさに関する調査

本市の住みやすさに関する調査の結果、「まあ住みよい」という回答がもっとも多く、35.0%であり、次いで「どちらかといえば住みにくい」が22.4%、「どちらともいえない」が17.0%となっています。

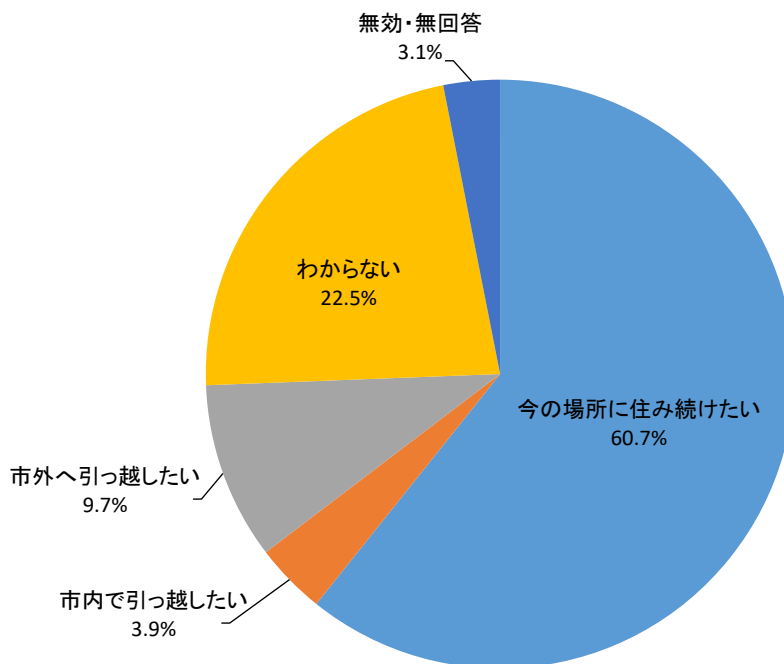
住みよいと感じている人の割合（「住みよい」「まあ住みよい」の合計）は、48.5%となっています。



No.	選択肢	回答数
1	住みよい	183
2	まあ住みよい	474
3	どちらともいえない	230
4	どちらかといえば住みにくい	303
5	住みにくい	61
6	わからない	17
	無効・無回答	87
回答者数		1,355

(2) 市への定住意向に関する調査

定住意向に関する調査の結果、「今の場所に住み続けたい」という回答がもっとも多く、60.7%であり、次いで「わからない」が22.5%、「市外へ引っ越したい」が9.7%となっています。定住したいと考えている人の割合（「今の場所に住み続けたい」「市内で引っ越したい」の合計）は64.6%となっています。

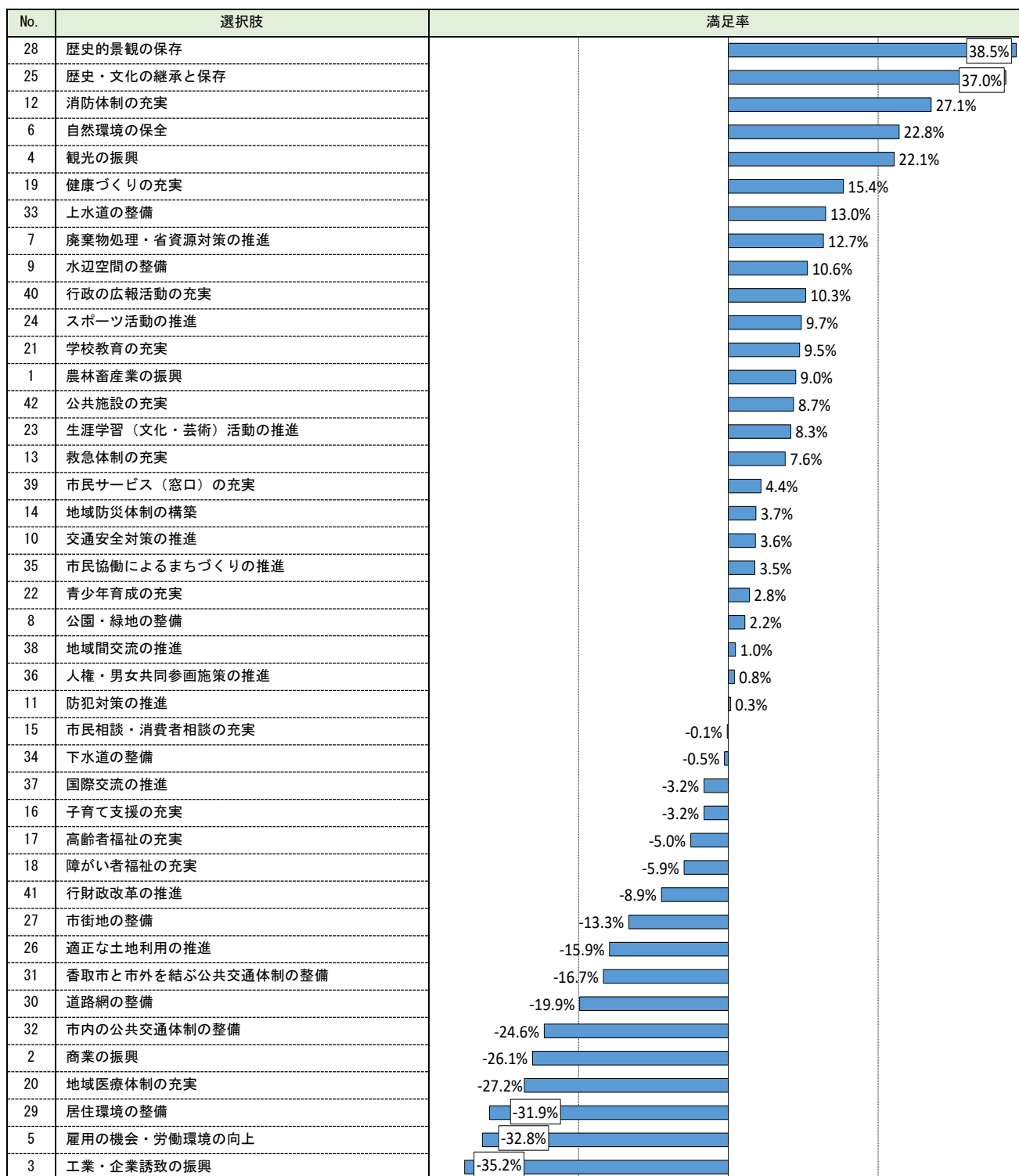


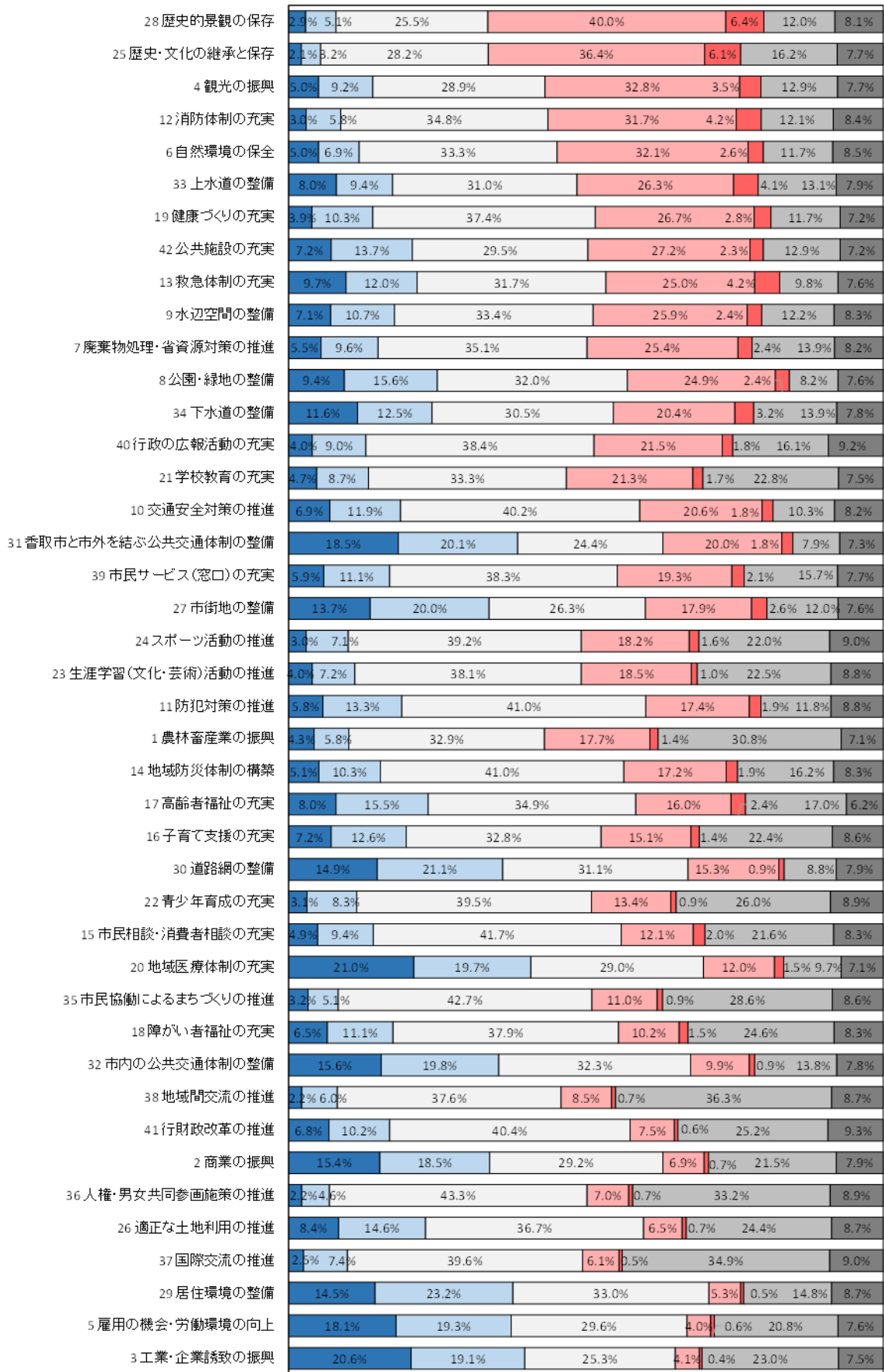
No.	選択肢	回答数
1	今の場所に住み続けたい	823
2	市内で引っ越したい	53
3	市外へ引っ越したい	132
4	わからない	305
	無効・無回答	42
回答者数		1,355

### (3) 市の取り組みに対する満足度調査

市の取り組みについて、満足率と不満率との差である満足度を見ると、「28 歴史的景観の保存」が38.5%と最も高く、次いで「25 歴史・文化の継承と保存」が37.0%となっており、本市の特徴である文化財保護に関する取り組みの満足度は他施策と比較し、高いことがわかります。

その一方で、満足度の低い施策を見ると、「3 工業・企業誘致の振興」が-35.2%、「5 雇用の機会・労働環境の向上」が-32.8%など、雇用や産業振興に関する施策の値が低いことがわかります。





n=1,355

■ 不満 □ やや不満 □ どちらともいえない ■ まあ満足 ■ 満足 □ 意見なし、わからない ■ 無効回答



#### (4)市の今後のまちづくりに対する重要度調査

市の今後のまちづくりに対する重要度を見ると、「20 地域医療体制の充実」が 45.4%と最も高く、次いで「17 高齢者福祉の充実」が 32.5%、「5 雇用の機会・労働環境の向上」が 27.6%、「16 子育て支援の充実」が 24.0%と続いています。

No.	選択肢	重要度
20	地域医療体制の充実	45.4%
17	高齢者福祉の充実	32.5%
5	雇用の機会・労働環境の向上	27.6%
16	子育て支援の充実	24.0%
13	救急体制の充実	21.6%
2	商業の振興	20.2%
11	防犯対策の推進	19.1%
14	地域防災体制の構築	17.4%
3	工業・企業誘致の振興	15.1%
1	農林畜産業の振興	14.9%
6	自然環境の保全	14.8%
31	香取市と市外を結ぶ公共交通体制の整備	13.8%
4	観光の振興	13.6%
22	青少年育成の充実	11.4%
10	交通安全対策の推進	11.2%
25	歴史・文化の継承と保存	10.5%
8	公園・緑地の整備	9.7%
30	道路網の整備	9.3%
27	市街地の整備	9.2%
33	上水道の整備	8.5%
28	歴史的景観の保存	8.3%
21	学校教育の充実	8.2%
32	市内の公共交通体制の整備	7.5%
29	居住環境の整備	7.1%
42	公共施設の充実	6.9%
18	障がい者福祉の充実	6.4%
34	下水道の整備	6.4%
26	適正な土地利用の推進	6.3%
19	健康づくりの充実	6.0%
24	スポーツ活動の推進	5.7%
39	市民サービス（窓口）の充実	4.3%
9	水辺空間の整備	4.2%
40	行政の広報活動の充実	4.1%
41	行財政改革の推進	4.0%
23	生涯学習（文化・芸術）活動の推進	3.3%
12	消防体制の充実	3.2%
35	市民協働によるまちづくりの推進	3.2%
37	国際交流の推進	1.9%
7	廃棄物処理・省資源対策の推進	1.7%
36	人権・男女共同参画施策の推進	1.3%
15	市民相談・消費者相談の充実	1.1%
38	地域間交流の推進	0.5%

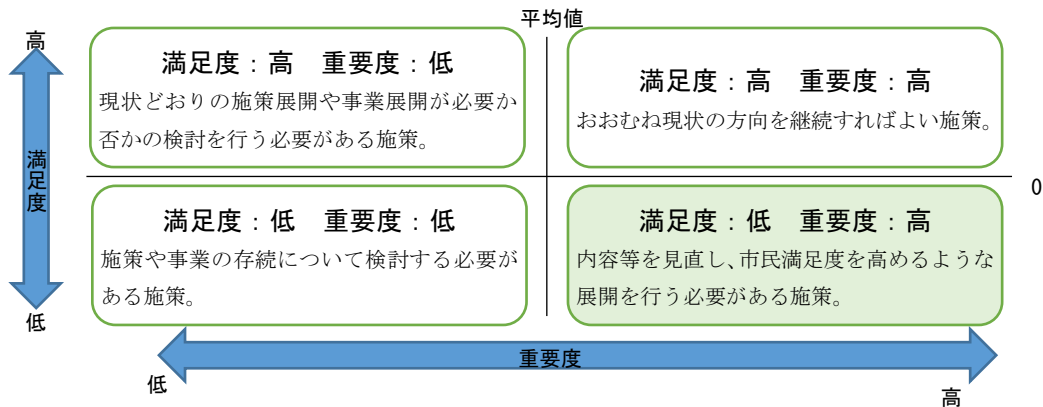
(5) 満足度・重要度調査結果の散布図

【全体の回答傾向】

市の取り組み、まちづくりに関する満足度と重要度の結果を「全体」と「世代別」に分けて散布図で示しています。

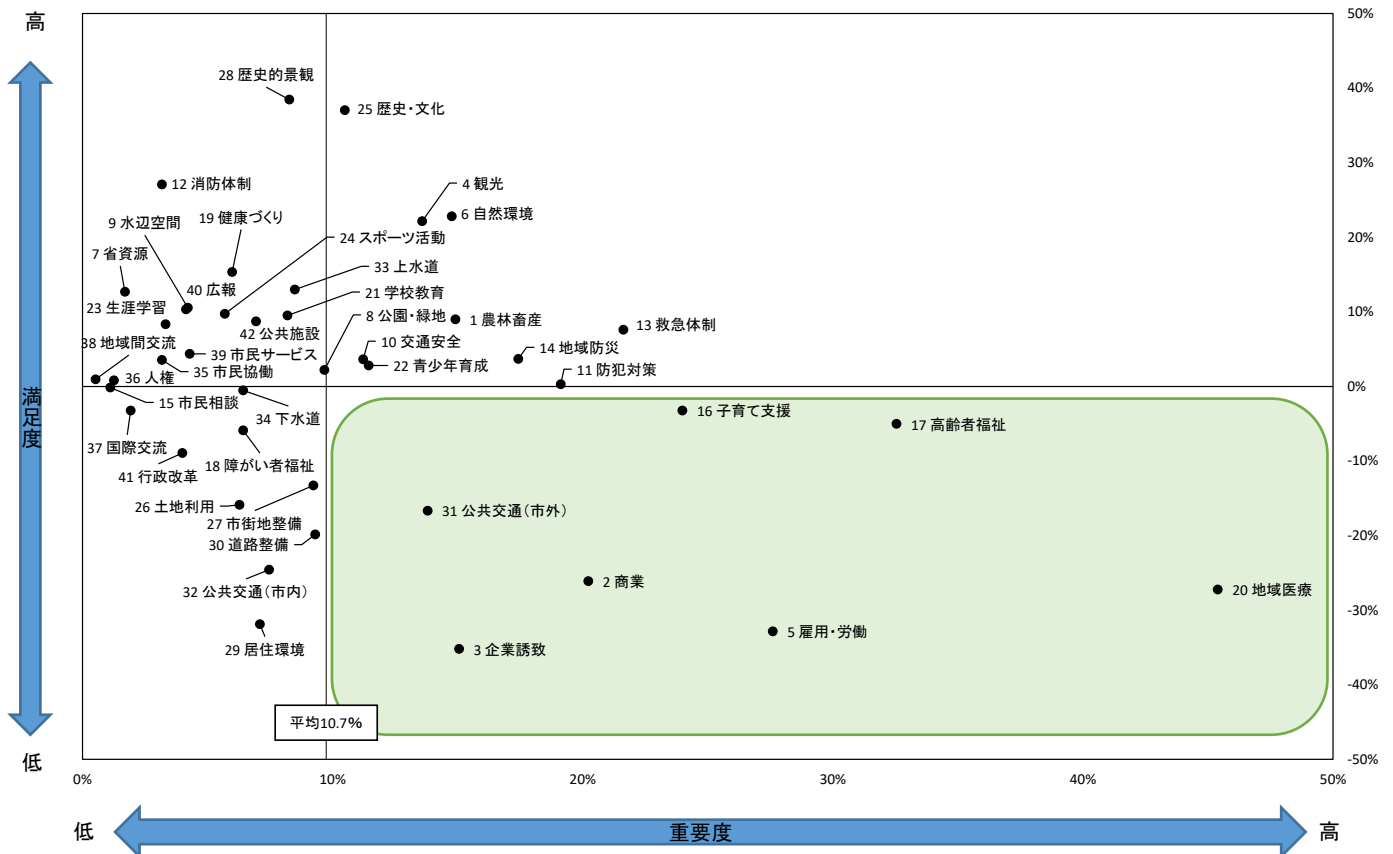
全体の回答傾向として、市の現状の課題（満足度が低く、重要度が高い施策）は、「5 雇用の機会・労働環境の向上」「20 地域医療体制の充実」などが挙げられ、これらの課題の解決に向けた施策を展開していく必要があります。

【散布図の見方】



【回答結果の分布図】

・全体（回答者数 1,355 人）



【世代別の回答傾向】

世代別の回答傾向として、市の現状の課題は、10～30 歳代では「16 子育て支援の充実」、「20 地域医療体制の充実」、40～50 歳代では「5 雇用の機会・労働環境の向上」、「20 地域医療体制の充実」、60 歳代以上では「17 高齢者福祉の充実」、「20 地域医療体制の充実」などが挙げられています。

回答傾向を比較した際、10～30 歳代では全体の回答傾向よりも「16 子育て支援の充実」、「27 市街地の整備」、60 歳代以上では「17 高齢者福祉の充実」の取り組みを重要だと思う傾向が強いことが読み取れます。

○10～30 歳代が重要視する取り組み

「2 商業の振興」、「5 雇用の機会・労働環境の向上」、「16 子育て支援の充実」、「20 地域医療体制の充実」、「27 市街地の整備」、「30 道路網の整備」、「31 香取市と市外を結ぶ公共交通体制の整備」

○40～50 歳代が重要視する取り組み

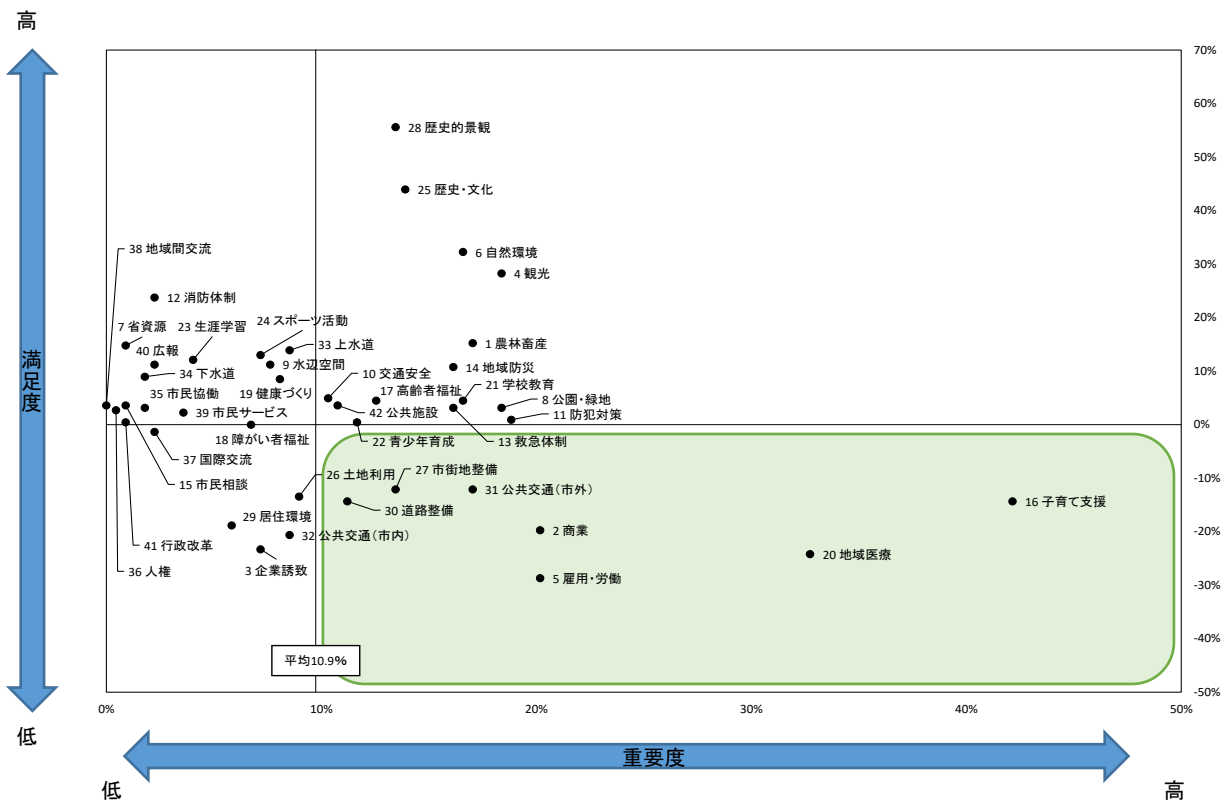
「2 商業の振興」、「3 工業・企業誘致の振興」、「5 雇用の機会・労働環境の向上」、「11 防犯対策の推進」、「13 救急体制の充実」、「16 子育て支援の充実」、「17 高齢者福祉の充実」、「20 地域医療体制の充実」、「31 香取市と市外を結ぶ公共交通体制の整備」

○60 歳代が重要視する取り組み

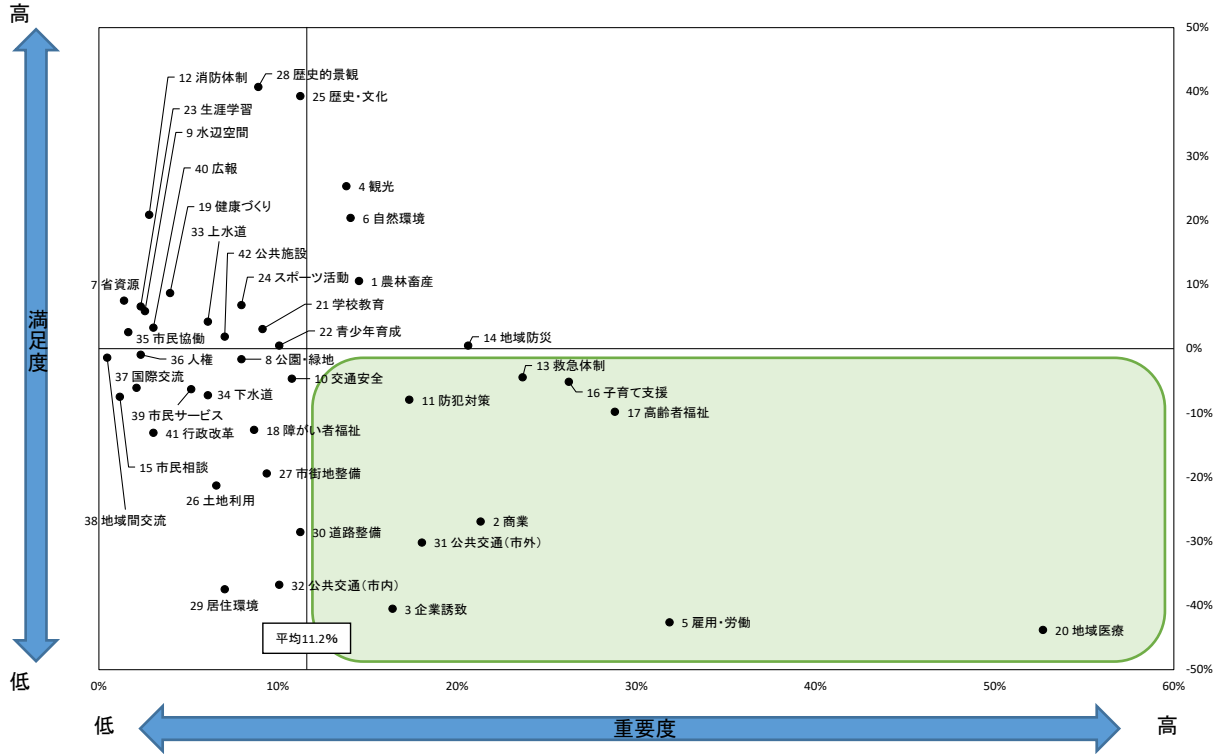
「2 商業の振興」、「3 工業・企業誘致の振興」、「5 雇用の機会・労働環境の向上」、「17 高齢者福祉の充実」、「20 地域医療体制の充実」、「31 香取市と市外を結ぶ公共交通体制の整備」

「2 商業の振興」、「5 雇用の機会・労働環境の向上」、「20 地域医療体制の充実」、「31 香取市と市外を結ぶ公共交通体制の整備」の4つの取り組みは、共通して各世代とも重要視していることがわかります。

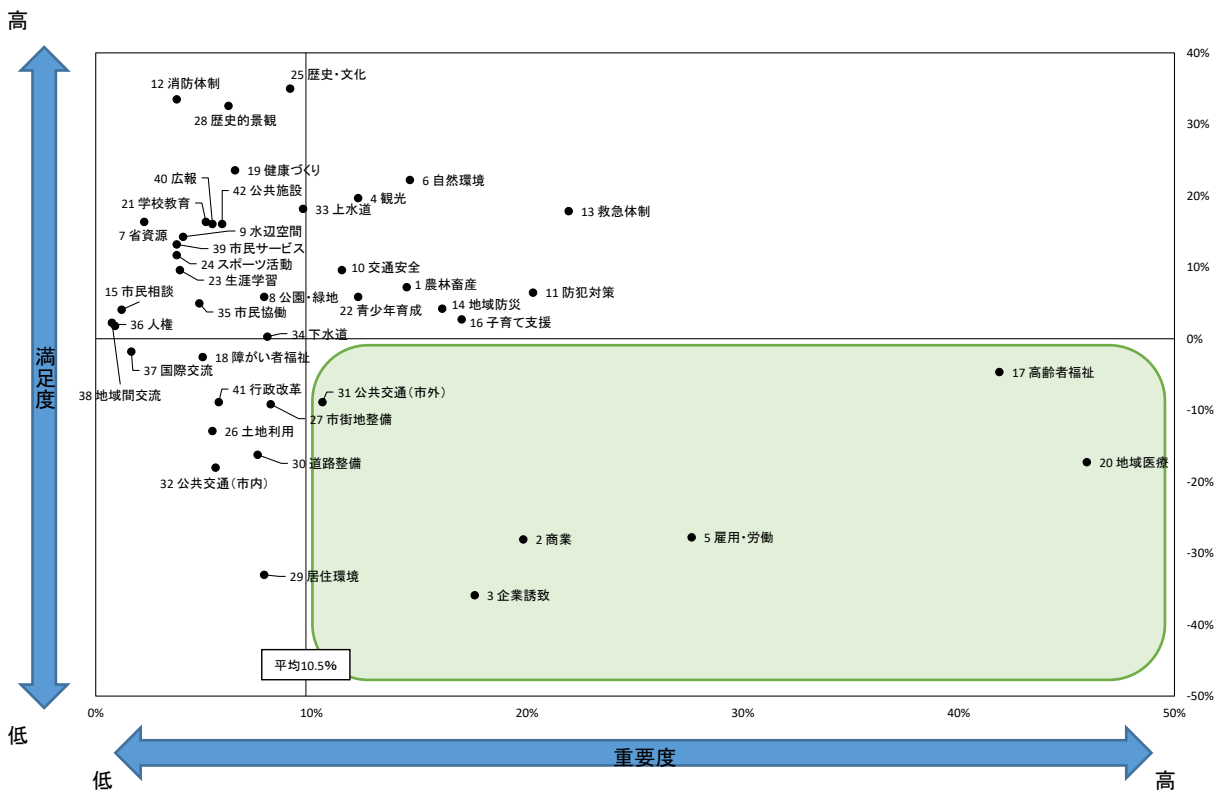
・10～30 歳代（回答者数 223 人）



・40～50 歳代（回答者数 427 人）



・60 歳代以上（回答者数 666 人）



## 5章 香取市総合計画・後期基本計画の検証

### 1節 検証の趣旨

香取市総合計画・後期基本計画（計画期間：平成25年度～29年度）では、計画期間内の事業成果を明確にするため、分野別計画の34の施策ごとに成果指標を設定しています。その指標に基づき各施策について5年間の達成度合い、進捗状況の検証を行い、明らかにすることによって、市民の市政に対する意識、理解度を高め、わかりやすい市政の実現を目指します。

### 2節 検証の考え方

#### ① 成果指標の活用

各施策の達成度の検証は、香取市総合計画・後期基本計画の各施策に設定した成果指標を活用し、行います。

#### ② 課題の把握と今後の方向性

各施策の達成度合い、進捗状況を明確にすることによって課題を把握し、今後のまちづくりの方向性を検討します。

#### ③ 社会状況の変化

自然災害等に起因する諸問題、経済環境の変化など様々な社会状況の変化等を適切に把握し、考慮した上で、各施策の今後の方向性を検討します。

#### ④ PDCAサイクルの確立

香取市総合計画・後期基本計画の検証により、今後のまちづくりに必要な施策の立案や見直し、行財政運営の改善をPDCAサイクルにより進めていきます。

### 3節 検証結果

各施策の成果指標による検証では、平成28年度末で、36項目が目標を達成済となっています。一方で、61項目については、社会状況、経済状況等の変化もあり、進行中・取り組み中のものもありますが、目標が達成できていない状況です。

達成済みの項目については、今後さらなる目標の設定の必要性等を検討し、それ以外の項目については、最終的な成果の検証を行い、今後の方向性や指標等の見直しを検討します。香取市総合計画・後期基本計画の検証結果を踏まえ、第2次香取市総合計画・前期基本計画の施策を推進していきます。

○成果指標の達成状況

No	設定指標名	設定目標			達成状況	
		単位	計画策定時 (H23)	目標 (H29)	H28実績	達成区分
1	認定農業者数	人	241	260	361	達成済
2	集落営農組織数	組織	16	30	41	達成済
3	利用権設定等面積	ha	2,427	2,800	3,145	達成済
4	香取ブランド認定数	品	9	11	9	
5	耕作放棄地面積	ha	502	480	503	
6	商品販売額	億円	1,353	1,400	—	
7	新規開業者数	件	4	10	10	達成済
8	商業従事者数	人	7,018	7,100	—	
9	誘致企業数	社	3	10	12	達成済
10	製造業従業者数	人	2,873	3,000	—	
11	製造業事業所数	社	122	130	—	
12	年間観光入込客数	万人	636	774	694	
13	小野川周辺の観光客平均滞在時間	H	2～3	5	—	
14	平均旅行消費額	円	4,913	6,500	—	
15	就業対策セミナー参加者数	人/回	13	20	3	
16	シルバー人材センターへの会員数	人	370	430	319	
17	河川のBOD環境基準の達成率	%	63.0	65.0	56.7	
18	環境ボランティア団体登録者数	人	380	450	459	達成済
19	再生可能エネルギーの導入量	kw	288	3,200	2,755	
20	市民1人1日あたりのゴミ排出量	g/人・日	1,050	1,000	984	達成済
21	リサイクル率	%	15.0	30.0	16.3	
22	資源回収実施団体数	団体	49	75	40	
23	市民1人あたりの公園面積	m <sup>2</sup>	6.08	6.50	6.54	達成済
24	人口1,000人当たりの交通事故発生件数	件	3.229	3.025	3.334	
25	人口1,000人当たりの刑法犯認知件数	件	10.048	10.048	7.035	達成済
26	自主防災組織の組織率	%	25	31	38	達成済
27	自主防災組織の組織数	団体	102	127	111	
28	救命講習受講者数(年間)	人/年	770	1,000	1334	達成済
29	消費生活相談の対応日数	回/週	3	5	5	達成済
30	消費生活講座の参加人数	人/年	64	100	93	
31	無料法律相談の実施日数	回/月	4	4	4	達成済
32	ボランティア団体数	団体	89	増加	88	
33	見守りネットワーク申込者数	人	219	1,000	549	
34	地域子育て支援センターの利用者数	人	11,096	15,000	14,227	
35	ファミリーサポートセンター会員登録数	人	25	40	47	達成済
36	市内保育所の待機児童数	人	0	0	0	達成済
37	幼保一元化施設の整備	施設	0	2	1	
38	放課後児童クラブの設置数	か所	8	11	15	達成済
39	転倒予防教室参加者数	人	464	530	1,629	達成済
40	介護ボランティア養成講座参加者数	人	37	60	16	
41	要介護(支援)認定者割合	%	13.4	15.0以下	14.8	達成済
42	一般就労移行者数	人/年	3	11	29	達成済
43	福祉施設利用者数	人	193	296	371	達成済
44	在宅障害福祉サービス利用者	人/年	400	500	467	
45	乳児健康診査の受診率	%	95.9	100.0	95.4	
46	幼児健康診査の受診率	%	89.3	100.0	94.4	
47	がん検診の受診率	%	19.8	25.0	22.6	
48	インフルエンザ予防接種の接種率(高齢者)	%	49.2	50.0	47.8	
49	国民健康保険被保険者1人当たりの総医療費	円	270,458	297,504	343,851	
50	国民健康保険税徴収率	%	87.10	90.00	90.71	達成済

No	設定指標名	設定目標			達成状況	
		単位	計画策定時 (H23)	目標 (H29)	H28実績	達成区分
51	特定健康診査の実施率	%	39.0	60.0	46.2	
52	特定保健指導実施率	%	17.6	60.0	21.1	
53	後期高齢者医療保険料徴収率	%	98.03	99.00	99.45	達成済
54	自立世帯数	世帯/年	-	5	2	
55	学校耐震化対策の未対応校舎の棟数	棟	11	0	0	達成済
56	学校再編後の小中学校数	校	33	28	29	
57	特別支援教育研修会受講済み教員数の割合	%	約25	75.0	98.0	達成済
58	ジュニアリーダー登録数	人	18	33	20	
59	単位子ども会への参加率（加入率）	%	56.8	75.0	31.4	
60	通学合宿実施小学校数	校	2	5	3	
61	生涯学習ボランティアの登録者数（人材バンク制度）	人	66	100	40	
62	一日の資料貸出冊数（人口1,000人あたり）	冊	6.8	8.0	9.6	達成済
63	スポーツ少年団員数	人	720	720	560	
64	体育協会会員数	人	3,719	5,000	4,204	
65	スポーツ施設利用者数	人/年	225,905	284,500	273,117	
66	国指定史跡の追加指定及び公有化数	件	1	2	1	
67	復旧する文化財の数	件	2	6	7	達成済
68	指定文化財説明板の設置数	件	116	125	120	
69	用途地域内等の宅地等面積	千㎡	6,218	6,240	—	
70	小野川周辺の観光入込客数	万人/年	33.0	58.1	56.8	
71	小見川地域への観光入込客数	万人/年	33.2	41.7	37.9	
72	佐原駅前広場利用者の満足度	点	40.4	52.0	—	
73	小見川駅前広場利用者の満足度	点	40.0	52.0	—	
74	木造住宅の耐震化率	%	44.2	80.0	47.7	
75	特定建築物の耐震化率	%	84.0	90.0	88.5	
76	道路改良率	%	60.6	62.0	60.9	
77	道路舗装率	%	81.3	83.0	81.3	
78	循環バスの利用者数	人	51,471	54,300	57,167	達成済
79	老朽管残存率（石綿セメント管）	%	47.7	40.0	41.7	
80	老朽管残存率（普通鉄鋳管）	%	100.0	74.0	68.7	達成済
81	収納率（現年度分）	%	97.9	98.2	97.7	
82	水洗化率	%	80.5	84.1	83.2	
83	合併処理浄化槽の設置数	基	2,959	3,439	3,252	
84	住民自治協議会の設立件数	協議会	13	20	21	達成済
85	男女共同参画に関する研修等の参加者数	人	200	500	130	
86	審議会等の女性構成比率	%	26.8	33.0	29.5	
87	市女性管理職の構成比率	%	7.3	12.0	11.1	
88	通訳ガイドボランティア案内件数	件	25	50	20	
89	市民向け英会話講座開催回数	回	4	6	7	達成済
90	姉妹・友好都市交流事業開催回数	回	4	8	12	達成済
91	市職員数	人	747	650	651	
92	部・課・班の数	部・課・班	7部29課 8センター-88班	5部25課 3センター-78班	5部25課 1センター-77班	達成済
93	ウェブサイトのアクセス件数	件/月	104,375	120,000	154,989	達成済
94	経常収支比率	%	83.3	93.5以下	86.5	達成済
95	実質公債費比率	%	10.5	13.0以下	10.8	達成済
96	将来負担比率	%	92.1	120.0以下	54.6	達成済
97	一般市税の徴収率（現年度分）	%	96.5	98.0以上	97.9	

## 第2編 基本構想

### 1章 香取市が目指す方向性



# 1章 香取市が目指す方向性

## 1 節 将来都市像

将来都市像は、目標年度である 2027 年度に向けた、香取市の「目指すべきまちの姿」を示すもので、第2次香取市総合計画に掲げる全ての施策の共通目標となります。

地域の特性を活かし、市民が主体となって、さらなるまちの発展を目指すため、ワークショップなどを通じて市民と行政がともに考え、香取市の将来都市像を次のように決めました。

豊かな暮らしを育む 歴史文化・自然の郷 香取

～人が輝き 人が集うまち～

### 「豊かな暮らしを育む」とは…

老若男女を問わず、香取市に関わるすべての人が、日々の暮らしの中でそれぞれの希望や理想の実現に向けて、活動し活躍できるまちを目指します。

#### 込められた想いの背景となった香取市の姿

香取市内には市民自治協議会（まちづくり協議会）やNPOなどが設置され、地域を大切に考え、より良い地域を目指し、多様な立場から意見を出し合い活動することで、地域の活力を高めています。今後、少子高齢化の進行など、社会環境が変化していく中でも、地域が自ら課題解決に向けて取り組むことで、まちづくりに関わるすべての人が活躍できる姿を表しています。

### 「歴史文化・自然の郷」とは…

豊かな自然と、歴史・文化などの地域資源を活かしながら、郷土の誇りと愛着を育みます。

#### 込められた想いの背景となった香取市の姿

ユネスコ無形文化遺産に登録された佐原の大祭・山倉の鮭祭り・水郷小見川花火大会・栗源ふるさととも祭りといった多くの祭りや行事、伊能忠敬翁・香取神宮・重要伝統的建造物群保存地区に選定された佐原の町並みなどが彩る「歴史文化」、利根川・黒部川・小見川城山公園等の河川や公園の「自然」など、歴史文化と自然を身近に感じる機会に恵まれていることが香取市の大きな魅力となっています。

## 「人が輝き 人が集う」とは…

市民が健康で豊かな生活を送るとともに、市内外から多くの人が集まり交流することで、互いに高めあい、さらに賑わいに溢れたまちを目指します。

### 込められた想いの背景となった香取市の姿

持続可能な地域社会を目指し、地域活動を担う人材の育成が重要となっています。安心して豊かな生活が送れるよう、地域活動の活性化が期待されています。また、歴史・文化・自然・農産物など、多様な地域資源に恵まれた香取市は、様々な人々を惹きつける魅力に溢れ、訪れる多くの人々との交流によって、活性化や新たなまちづくりの展開が期待できます。

## 2 節 施策の大綱

「目指すべきまちの姿」を実現するために、次の6つの分野を施策の大綱として定め、効率的かつ効果的に各分野の施策を推進していきます。

農業をはじめとした産業や、歴史・文化といった地域資源を最大限に生かしつつ、住んでいる人、訪れる人、これから住む人、香取市と関わりを持つすべての人々にとって魅力的なまちづくりを展開していきます。

### 1. 産業・経済の振興 ～産業の活性化によりまちの活気を高め、賑わいのあるまちを創る～

少子高齢化の進行により生産年齢人口が減少していくなか、基幹産業の活性化や新たな産業などの育成、雇用の場の確保や観光資源の積極的な活用を通じて、本市の持続的な成長を推進していきます。

- ①活力に満ちた農林畜産業の推進
- ②地域の消費を賄い雇用の受け皿となる商工業の振興
- ③地域経済の基盤となる優良企業の誘致
- ④資源の連携による新しい魅力に溢れた観光の推進

### 2. 生活・環境の向上 ～水と緑のやすらぎを感じ、安心・安全に暮らせるまちを創る～

安心・安全に暮らせ、住み続けたいまちにするために、身近な自然との共生を促進し、災害や犯罪・事故等による被害の防止・低減を推進していきます。

- ①豊かな自然環境との共生の促進
- ②資源循環と廃棄物の適正処理の推進
- ③公園・緑地・水辺空間の適正な管理と整備
- ④地域ぐるみの交通安全・防犯体制の充実
- ⑤地域防災力の向上と消防救急体制の充実
- ⑥誰もが気軽に利用でき信頼される相談体制の強化

### 3. 健康・福祉の充実 ～支えあい、健康で生き生きと自分らしく暮らせるまちを創る～

市民一人ひとりが、心身ともに健康で生き生きと活動し活躍するために、必要な支援やサービスを受けられる体制と、地域で互いに助けあう仕組みづくりを整備していきます。

- ①助けあい支えあう地域福祉の推進
- ②一歩進んだ介護・介護予防の推進
- ③生きがいと安心に満ちた高齢者福祉の充実
- ④安心して産み育てられる子育て支援の充実
- ⑤障害のある人もない人も共に暮らしやすい地域づくりの推進
- ⑥市民生活を支える健康づくり体制の充実
- ⑦安心して安全な医療提供体制の充実
- ⑧安心して暮らせる社会保障の充実

### 4. 教育・文化の振興 ～地域の歴史・文化を知り、未来を担う人を育むまちを創る～

将来を担う子どもたちが、確かな学力・豊かな心・健やかな体を育むことができるよう、教育環境の是正や高度情報化社会に対応した学習環境の整備、家庭や地域の見守り体制を充実していきます。

また、すべての市民が生きがいや地域との交流を保ち、健康で活力のある生活を送ることができるよう、いつでも、どこでも学ぶことができる環境と、主体的にスポーツに取り組むことができる環境を整備していきます。

- ①学校等の適正配置と快適な教育環境整備の推進
- ②生きる力を育てる特色ある学校教育の推進
- ③次代を担う青少年の健全育成
- ④ひらかれた生涯学習活動の振興
- ⑤市民主体のスポーツ活動の振興
- ⑥郷土を愛する心を育む歴史文化の継承

## 5. 都市基盤の整備 ～安全で快適な魅力あふれるまちを創る～

安全で、魅力あふれる快適なまちを実現するために、災害に強く機能的で利便性の高い都市基盤、安心して暮らせる住環境を整備していきます。

- ①秩序ある土地利用の推進
- ②機能的で賑わいのある市街地の整備
- ③また訪れたい魅力にあふれた町並みの整備
- ④安心して暮らせる住環境の整備
- ⑤暮らしと産業を支える道路網の整備
- ⑥身近で利便性の高い公共交通体制の整備
- ⑦安全な水を安定して供給する水道の整備
- ⑧快適な暮らしと水環境をつくる下水道の整備

## 6. 市民参画・行政の取組 ～みんなが力を発揮して将来に続くまちを創る～

人口減少や少子高齢化が進行するなか、行政サービスの質と量を維持しつつ、将来にわたって持続可能なまちを実現するために、限られた経営資源を効率的に活用し、市民や企業等と行政との連携をより深めたまちづくりを推進していきます。

- ①市民が主体となった地域づくりの推進
- ②すべての人が平等な人権尊重社会の実現
- ③市民の感性や想像力を高める多様な交流の推進
- ④市民とのコミュニケーション手段の充実
- ⑤効率的で効果的な行財政の運営

### 3節 まちづくりの基本姿勢

将来都市像である「豊かな暮らしを育む 歴史文化・自然の郷 香取 ～人が輝き 人が集うまち～」の実現に向け、本市のまちづくりを効果的に進めるため、次の3つの考え方に基づき取り組みを進めます。

#### 【人との繋がり醸成】

市民や行政など、本市に関わるすべての主体が、ともに考え、責任を共有しながら、まちづくりを進める必要があります。そのためには、これまで以上に連携を進めるとともに、自治会や市民自治協議会などの活動を通じた人の繋がり醸成や、様々な活動を実施している団体等とのさらなる連携の深化が必要となります。

そこで、これまでの「市民協働」の考えや取り組みをさらに拡充し、本市に関わるすべての主体が互いに協力できる体制を構築し、将来都市像の実現に向けた取り組みを推進します。

#### 【香取らしさの追求】

地域間競争がますます激しさを増すなか、他にはない「香取市らしさ」を追求する必要があります。

本市への移住や観光等の来訪者の拡大を目指すためには、地域間の競争が進む中においても独自性を発揮できるよう、本市の優れた地域特性や特色を最大限に活かし、将来都市像の実現に向けた取り組みを推進します。

#### 【効率的な行財政運営の推進】

人口減少による税収の減少など、本市の財政は縮小化が避けられない状況となっています。また、合併による優遇措置の終了や合併特例債や臨時財政対策債に対する元利償還金が増大し、財政状況が一層厳しくなることが見込まれます。

そこで、限られた財源を有効に活用するために事業の優先順位付けを行うなど、選択と集中を進め、将来都市像の実現に向け、今まで以上に計画的かつ効率的・効果的な行財政運営を推進します。

